

平成 30 年度 学校 自己 評価 報告 書

学校教育目標		○勤労と勉学に励み、真理と平和を愛し、実践力のある人間を育成する。 ○豊かな知性と情操を養い、心身ともに健康で、調和のとれた人間を育成する。 ○広い世界観に立ち、親和協調の気風を養い、豊かな社会の建設に貢献しうる人間を育成する。				
本年度の重点目標		□生徒の基本的な生活習慣の定着を支援するとともに、生徒の社会性の涵養に努める。 □授業改善に向けての取組を継続し、生徒の基礎・基本の学力の定着に努める。 □各年団におけるキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識の高揚と進路実現に努める。 □生徒理解と情報共有を進め、生徒の居場所・安心な学びの場づくりに努める。				
重点項目	短期経営目標	具体的な計画	評価項目	達成状況	評定	改善方策
1 教務課	(1) 授業改善の組織的取組を継続しつつ、家庭学習の習慣を付けさせ、より高いレベルの学力の育成を目指す。	①「主体的・対話的で深い学び」をテーマに設定して授業改善を行い、授業の相互参観やグループ討議を行う。 週末課題について、内容を工夫するとともに、家庭学習として取り組みやすい日を提出日に設定し、提出期限を厳しくすることで、家庭学習の習慣を身につけさせ、その提出やテストで評価を行う。	① 各教科による成績の分析とアンケートの結果 《基礎学力指導》 教員 保護者 生徒 29年度：1.5 1.2 0.8 28年度：1.5 1.2 0.7 《主体的な授業》 教員 生徒 29年度：1.4 0.8 28年度：1.4 0.8	①7月に予定していた「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした教員研修は、被災のため実施できなかった。しかし、9月に市工と合同公開授業を実施し、ICT活用を中心とした有意義な相互の授業参観をすることができた。また、11月の授業公開週間を中心にOJTチームと連携してICTを活用した授業を組織的に展開した。アンケートによれば、基礎学力指導の実践と生徒が主体的に取り組むための工夫について昨年度までと比較して良い結果が出ている。 学校評価のアンケート結果 《基礎学力指導》 教員 保護者 生徒 30年度：1.6 1.3 0.8 《主体的な授業》 教員 生徒 30年度：1.5 1.0 現在週末課題の提出者は4割程度であり、これを向上させる努力をしているところである。	B	①来年度も授業公開週間を中心に、授業改善の働きかけを継続しておこなうとともに、今年度被災のため実施できなかった「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした教員研修を企画していきたい。また、家庭学習の習慣を付けさせるための取り組みとして、考查週間を中心に学習（生活）実態調査の実施を検討していきたい。
	(2) 評価方法等の周知を継続する。特に欠席の多い生徒の意欲を喚起することで、未履修・未修得の減少に努める。	①入学予定者登校日・オリエンテーション・PTA総会・授業などを通じて生徒・保護者に評価方法を周知する。 2学期の11月中に成績不振の生徒を個別に呼び出して教務課長が行う注意喚起を、今年度も継続して行う。	①未履修・未修得者数の減少。 *未履修・未修得科目を持つ者 1年/2年/3・4年 29年度末 15名/10名/10名 28年度末 19名/18名/15名 27年度末 12名/10名/7名 *評点による未修得科目の延べ数 29年度末 28科目 28年度末 47科目 27年度末 35科目	①計画通り、生徒・保護者に評価方法を周知した。また、2学期中間考査終了時点で、多くの課題を抱える3・4年生4名、2年生2名、1年生3名に個別の指導を行った。 2学期終了時点での警告点保有者は次の通り。 1年/2年/3・4年 9名/7名/15名 (2学期中間終了時点。 12名/13名/18名) 年度途中で改善が見られ、昨年度末よりも良い状態である。 なお、2学期末までの退学・転学・休学者数は次の通りである。 30年度 12(4)←29年度 14(7) ←28年度 6(4) ()は1年生の内数 またアンケートによれば、成績評価の方法を十分に分かっていない生徒が約16%いるが、昨年度の約20%からは改善している。	B	①今後も繰り返し説明していくとともに、特に成績不振による未修得者数の減少を図っていきたい。また、成績上位者をさらに伸ばすための取り組みを検討し実施していきたい。

※アンケート数値＝「よくあてはまる」×(2)＋「ややあてはまる」×(1)＋「あまりあてはまらない」×(-1)＋「全くあてはまらない」×(-2)

2 生徒課	(1)生徒の基本的な生活習慣が定着し、規範意識を身に付けることができるよう支援する。	<p>①クラスごとの遅刻総数の数値を一覧にし、見える化を図るとともに、遅刻回数が多い生徒の家庭に定期的に連絡をすることで遅刻の減少に取り組む。</p> <p>②「あいさつ運動」「身だしなみ強化週間」「教室美化チェック」などを委員会や生徒会と連携して生徒主体で行い推進する。</p> <p>③頭髪(帰って直して来る指導)やピアス・携帯・イヤホン(預り指導)に関する指導に継続して取り組む。</p>	<p>①遅刻総数の減少 29年度：4,715回 28年度：5,028回 27年度：5,027回</p> <p>①②③学校評価アンケート結果 《基本的な生活習慣の定着》 教員 保護者 生徒 29年度：1.4 1.0 0.6 28年度：1.4 1.1 0.7 27年度：1.4 1.1 0.8</p>	<p>①被災のため、6・7月の資料がないので前年同時期との比較はできないがその他の月の昨年比の合計は-394回と減少した。学校評価アンケートからも基本的な生活習慣の改善が見られた。</p> <p>学校評価アンケート結果 《遅刻・欠席の減少》 教員 保護者 生徒 30年度：1.5 1.2 0.9</p> <p>②委員会等の取り組みを学期に1回行った。今年度の反省を踏まえて来年度も引き続き取り組んでいく。</p> <p>③ピアス・携帯・イヤホン等の校内ルールについては、生徒だけでなく教員へ通信の発行、日々の声かけを通じて周知徹底を図った。今後も継続した指導を行う必要がある。</p>	B	<p>①②③基本的な生活習慣については、遅刻総数が全体で減少した理由として4・5月と9月の減少が大きい。今後は、学期の始まりだけで無く、気の緩みが無いようにしていくことでよりしっかりとした基本的な生活習慣を身につけさせる。規範意識については、引き続き生徒並びに教員に通信等を発行して周知徹底を図る。</p>
	(2)生徒が学校行事や部活動・委員会活動に積極的に参加し、「自己有用感」を高めることができるよう支援する。	<p>①生徒会を中心に学校行事を計画し、掲示物や通信等を発行し積極的な参加を促す。</p> <p>②活動計画・委員会目標掲示等により、委員会活動の推進を目指す。</p>	<p>①②学校評価アンケート結果 《学校行事・生徒会活動・部活動に積極的に参加》 教員 保護者 生徒 29年度：1.2 1.1 0.4 28年度：1.2 1.1 0.5 27年度：1.5 1.1 0.8</p>	<p>①体育祭では団旗の作成、マスコットの作成、文化祭ではプレオープンイベントの開催、地域復興のために幼稚園児の招待、復興の気持ちを込めた全校制作、それに伴うクラウドファンディングをするなど生徒主体の新たな取り組みが数多く行われ、学校評価アンケートでも生徒に実感がでる結果となった。</p> <p>学校評価アンケート結果 《学校行事・委員会活動・部活動に積極的に参加》 教員 保護者 生徒 30年度：1.5 1.5 1.0</p> <p>②委員会活動の掲示を行い、体育祭・文化祭等の学校行事でも各種委員会の活動を行った。</p>	A	<p>①②被災の影響で体育祭・文化祭の時期が近くなったことにより新たな取り組みを行うことができたが、来年度以降も引き続き取り組むことができるように工夫が必要である。委員会活動についても生徒自身が行った振り返りを来年度に引き継いで改善に取り組んでいく。</p>
3 進路課	(1)多様化する生徒の実態に合ったキャリア教育を実践し、生徒の進路意識の向上を目指す。	<p>①キャリアノートの作成を視野に入れた進路LHRの実施と生徒が興味を引くような進路行事(進路講演会、進路セミナー等)を検討し、実施していく。</p> <p>②各学期初めに進路希望調査を実施し、担任面談や進路相談・アドバイス等の際の資料として活用した進路指導を実践する。</p>	<p>①学校評価アンケート 《キャリア教育の実践》 教員 保護者 生徒 29年度 1.6 1.2 0.9 28年度 1.3 1.0 1.1 27年度 1.3 1.1 0.8</p> <p>②進路希望調査による進路意識の推移</p>	<p>①一部の行事を除き、計画通り進路LHR、進路行事を実施した。実施後の生徒の反応も良かった。</p> <p>・学校評価のアンケート結果 《キャリア教育の実践》 教員 保護者 生徒 30年度 1.6 1.3 1.1</p> <p>②進路未定と回答した生徒(1学期:全学年 2・3学期:卒業学年を除く) 1学期 42.1% 2学期 37.1% 3学期 30.7% 未定の生徒が非常に多いのが現状である。</p>	B	<p>①キャリアノートの作成及び進路行事の振り返りと内容の検討により、在校生の実態に合ったキャリア教育の実践を行っていく必要がある。</p> <p>②進路希望調査結果を参考に、個々の生徒の実態に合った進路指導を実践していく。</p>

	<p>(2)個々の生徒が持つ特性について理解を深め、100%の進路実現を目指す。</p>	<p>①アルバイトの推奨やインターンシップの働きかけ、個々の生徒の学力に応じた学力対策を行い、2学期末に各学年において進路情報検討会を実施する。</p> <p>②卒業学年に対し、進路課と担任による進路面談、全教員による面接指導の実施。在校学年に対しては、学期ごとの担任面談の実施及び個々の生徒の実態に合った進路指導を実践していく。</p>	<p>①学校評価アンケート《進路指導の実践》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>1.5</td> <td>1.2</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>1.7</td> <td>1.1</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>1.5</td> <td>1.3</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>②進路未決定者数(割合) 過去3年間の進路未決定者数(割合)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>3/4</td> <td>6(6.5%)</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>5/4</td> <td>7(10.6%)</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>8/4</td> <td>2(19.0%)</td> </tr> </tbody> </table>		教員	保護者	生徒	29年度	1.5	1.2	0.4	28年度	1.7	1.1	0.8	27年度	1.5	1.3	0.9	29年度	3/4	6(6.5%)	28年度	5/4	7(10.6%)	27年度	8/4	2(19.0%)	<p>①アルバイト実施約5割。インターンシップ参加8月(8人)、3月(15人希望)1/8に2・3年生対象に進路情報検討会を実施。 ・学校評価のアンケート結果《進路指導の実践》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度</td> <td>1.6</td> <td>1.3</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>②卒業学年の進路面談・進路面接を実施。在校学年においては、各学期の担任面接において、進路についての相談・アドバイスを実施。 ・進路未決定者(1月末)13/44(29.5%)引き続き指導中である。</p>		教員	保護者	生徒	30年度	1.6	1.3	0.7	B	<p>①アルバイトの割合を増加させていきたい。その他の生徒については強くインターンシップを勧めていきたい。進路情報検討会を継続していく。</p> <p>②早い段階から進路を意識できるように、進路課・担任と協力しながら呼びかけを続けていく。</p>						
	教員	保護者	生徒																																										
29年度	1.5	1.2	0.4																																										
28年度	1.7	1.1	0.8																																										
27年度	1.5	1.3	0.9																																										
29年度	3/4	6(6.5%)																																											
28年度	5/4	7(10.6%)																																											
27年度	8/4	2(19.0%)																																											
	教員	保護者	生徒																																										
30年度	1.6	1.3	0.7																																										
4 厚生課	<p>(1)生徒・保護者への健康・安全に関する知識の啓発活動に努め、疾病治療率の向上を図る。</p>	<p>①健康・安全に関して生徒や学校の実態に即した情報の提供を印刷物・掲示物・電子媒体によって行い、健康・安全に対する知識の啓発に取り組む。</p> <p>②担任や個別支援委員会等との連携を密にして、生徒の心身の健康状態の確かな把握に努める。また、疾病治療の必要性を個に応じて懇談や紙、電子媒体によって知らせる。</p>	<p>①学校評価アンケートの結果《健康の増進と安全保持》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>1.5</td> <td>1.2</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>1.2</td> <td>1.3</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>1.4</td> <td>1.2</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>②疾病治療率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>眼科</th> <th>歯科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>46.6%</td> <td>18.4%</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>40%</td> <td>21.6%</td> </tr> </tbody> </table>		教員	保護者	生徒	29年度	1.5	1.2	0.7	28年度	1.2	1.3	0.9	27年度	1.4	1.2	0.9		眼科	歯科	29年度	46.6%	18.4%	28年度	40%	21.6%	<p>①被災に際しては、生徒の安否確認や生活状況の確認等を行った。また、保健だよりを6回発行し、ポスター掲示もした。文化祭では保健委員会による展示発表を行った。検尿提出の勧奨をeこねつを活用して行った。 ・学校評価のアンケート結果《健康の増進と安全保持》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度</td> <td>1.6</td> <td>1.3</td> <td>0.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>②担任や個別支援委員会と情報を共有し外部機関とも連携して被災の影響による生徒の精神的ダメージの把握とそのケアに努めた。また、懇談時に健康診断に係る書類を提示して受診勧奨した。 ・疾病治療率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>眼科</th> <th>歯科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度</td> <td>46.1%</td> <td>34.8%</td> </tr> </tbody> </table>		教員	保護者	生徒	30年度	1.6	1.3	0.9		眼科	歯科	30年度	46.1%	34.8%	B	<p>①アンケート結果からゆっくりであるが着実に成果が上がっていると思う。生徒にとってわかりやすい表現になるようさらに工夫する。</p> <p>②歯科治療に関しては治療率が昨年比で約倍に向上したものの、その率は低い。原因を探りつつ今年の取組みを基本にして来年も取り組む。</p>
	教員	保護者	生徒																																										
29年度	1.5	1.2	0.7																																										
28年度	1.2	1.3	0.9																																										
27年度	1.4	1.2	0.9																																										
	眼科	歯科																																											
29年度	46.6%	18.4%																																											
28年度	40%	21.6%																																											
	教員	保護者	生徒																																										
30年度	1.6	1.3	0.9																																										
	眼科	歯科																																											
30年度	46.1%	34.8%																																											
	<p>(2)ユニバーサルデザインの観点ですべての生徒にとって学びやすい環境作りに努め、生徒の環境美化意識の涵養を図る。</p>	<p>①ユニバーサルデザインに立脚した教室の整備に引き続き取り組み、学習しやすい環境作りを行う。</p> <p>②教室の環境美化に係る重点目標を一定期間ごとに定めたり、ポスター作成や清掃ボランティアへの参加により生徒に実践を促す。</p>	<p>①学校評価アンケートの結果《教室整備》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>1.3</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>1.2</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>1.4</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>②学校評価アンケートの結果《環境美化意識》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29年度</td> <td>1.2</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>0.8</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>1.2</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>		教員	生徒	29年度	1.3	0.5	28年度	1.2	0.5	27年度	1.4	0.6		教員	生徒	29年度	1.2	0.2	28年度	0.8	0.6	27年度	1.2	0.6	<p>①年度当初に教室の整備についてルールを定めて職員で共通理解し、各教室のデザインを統一するよう図った。教室環境の改善がアンケート結果からもうかがえる。 ・学校評価アンケートの結果《教室整備》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度</td> <td>1.5</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>②教室掃除のやり方について、ルールを定め、その実行を目標とした。また、美化委員会で環境美化に係るポスターを作製し、清掃ボランティアにも参加できた。アンケートのポイントも上昇した。 ・学校評価アンケートの結果《環境美化意識》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30年度</td> <td>1.3</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table>		教員	生徒	30年度	1.5	0.7		教員	生徒	30年度	1.3	0.7	B	<p>①②アンケート結果からも学びやすい環境作りは着実に進んでいることがうかがえるが、公共物の使用についての注意点や環境美化に係ることから生徒に伝わりやすい表現にする工夫に努める。</p>			
	教員	生徒																																											
29年度	1.3	0.5																																											
28年度	1.2	0.5																																											
27年度	1.4	0.6																																											
	教員	生徒																																											
29年度	1.2	0.2																																											
28年度	0.8	0.6																																											
27年度	1.2	0.6																																											
	教員	生徒																																											
30年度	1.5	0.7																																											
	教員	生徒																																											
30年度	1.3	0.7																																											

5 年 団	<p>(1)保護者との連携・協力を軸に、生徒が落ち着いて学校生活を送れるよう、安心・安全な生活の場の確立に努める。</p>	<p>(1年団) 保護者との連携・教員間での情報交換を密にし、生徒面談を通して改善を図る。</p> <p>(2年団) 学習や資格取得を積極的に行わせ、学校行事等で学校を引っ張っていきけるよう行動させ、通信等でその成果を保護者に連絡し、連携を図り、効果を上げる。</p> <p>(3・4年団) 保護者との連携・年団教員での情報交換を密にし、生徒面談を通して改善を図る。</p>	<p>(1年団) 学校評価アンケートの結果を活用する</p> <p>(2年団) 授業アンケート、学校生活アンケートの結果を取り分析する。</p> <p>(3・4年団) 学校評価アンケートの結果を活用する。</p>	<p>(1年団) 学期ごとの面談に加え、日々の生活の中で個別の面談を行い、さらにそれを教職員間、保護者間で情報の共有をし、効果的な指導ができた。場面や状況に応じて教員間の分担がスムーズにできたことでより効果があった。 学校評価アンケート結果からも「クラスづくり」「いじめ」「連携」とも生徒、保護者、教員とも昨年と同じポイントとなっている。</p> <p>(2年団) 資格取得に多くの生徒が積極的に行えた。学校行事に関しても被災後の限られた行事の中で各行事に2年生も他学年とともに新しいものを発案し、取り入れることができた。生徒会も多くの生徒が立候補し、学校の中心となる積極的姿勢が見えた。 商業（ワープロ検定3級、準2級、情報処理検定3級、準2級） 家庭（食物4級、被服4級）</p> <p>(3・4年団) 各学期の面談週間に加え、必要に応じて個別に面談を行い、生徒の状況把握に努めた。特に被災した生徒を中心に、保護者や教育相談の先生と連絡を密に取り連携を図った。 学校評価アンケート結果によると、「クラスづくり」について、あてはまると回答した生徒は7割で、昨年度を上回った。また、「けじめある生活を送れているか」については、8割が送れていると答えており、昨年度より上回っていたが、教職員の認識とは、レベルに差があるように感じた。</p>	<p>(1年団) 集団として安心した学校生活を送れるクラス作りを引き続き連携をとりながら行っていくと同時に、安心、安全はもちろんのこと、充実した学校生活を送れるような様々な場面でのアプローチをしていきたい。</p> <p>(2年団) 商業、家庭においては資格取得があり、意欲も高いが、農業の生徒にも何らかの形で目に見える形でのスキルを身に付けさせたい。生徒会の生徒にはしっかりと意識を持たせ新しいものを創造させていくよう努める。</p> <p>(3・4年団) 生徒の生活の様子や精神状態に関心や注意を払い、年団教員を主に、全教員で情報を共有する。また、学校生活において、生徒の日常的かつ継続的な指導に努める。</p>
-------------	---	---	--	---	--

	<p>(2) 各課や年団との連携を深め、生徒情報や指導方法を共有し、生徒の社会性と協調性を身につけさせ、進路実現に向けた指導の充実に努める。</p>	<p>(1年団) 進路行事後のアンケートや学校評価アンケートの結果で得た情報を教員間で共有し個に応じた進路指導をする。</p> <p>(2年団) 社会人基礎力の育成のために、アルバイト、インターンシップに積極的に参加させる。「手紙の書き方」という教材を用い、文書作成能力を養う。</p> <p>(3・4年団) 先を見越した行動をし、TPOに応じた行動が取れるよう指導し、改善を図る。同時に各課と連携し、面接試験対策を充実させ、個に応じた進路指導を実施する。</p>	<p>(1年団) 進路行事後のアンケートや学校評価アンケートの結果を活用する。</p> <p>(2年団) 学校生活アンケート、教科担任をはじめとする教員からの情報を共有し、分析する。</p> <p>(3・4年団) 学校評価アンケートの結果を活用する。就職率・進学率。</p>	<p>(1年団) 2学期末、学年末前に面談を行いその中で進路希望調査を行った、将来を考えるきっかけを作ることができた。進路LHRにおいても、正社員の福利厚生を学ばせたり、求人票の見方を実施し、実感させることができた。</p> <p>(2年団) 手紙の作成の教材により文書作成ためのスキルの練習を行った。12月の懇談で進路について保護者との情報交換ができ、春休みのインターンシップ、オープンスクールに積極的に参加するよう促し、多くの希望者が出ている。</p> <p>(3・4年団) 被災直後ではあったが、外部施設等を借りての進路指導を実施。面接指導もほぼ例年通り行った。アンケート結果も昨年の倍近くの生徒が「進路実現に向けた進路指導」について、あてはまると答えている。また、就職・進学希望決定者数は下記の通り。 今年度卒業予定者数：43名 就職・進学希望者：37名。内合格者31名。残り6名は支援を続ける。</p>	<p>(1年団) 具体的な進路意識を持たせ、そこに向けてやらなければならないこと、今できることを明らかにさせ、進路意識の高揚とともに、書類の書き方、受験知識などの力をつけさせることでインターンシップ、オープンスクールなどの参加。資格取得などの具体的な動きにつなげていきたい。</p> <p>(2年団) インターンシップ、オープンスクールで得た情報を進路決定の材料にし、目標設定をさせ、個人のスキルや考え方や創造力の幅を持たせていきたい。</p> <p>(3・4年団) 学校を通して就職・進学を希望しない生徒やそれらを全く望まない生徒について、進路意識を持たせることが難しく、今後の課題。3Aを対象にインターンシップへの参加を促し、進路意識を持たせる。</p>																										
<p>6 学校運営</p>	<p>(1)地域の人材の活用や外部機関との連携を強化して、地域に信頼され、魅力ある学校づくりに努める。</p>	<p>①家庭・地域、校種の異なる学校や関係機関とのネットワークを活用して学校の魅力を発信する。</p> <p>②学校の現状やビジョン等を家庭や地域等に分かりやすく発信し、開かれた学校づくりや地域貢献を意欲的に推進する。</p>	<p>①②学校評価アンケートの結果を活用する。 《開かれた学校づくり》</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>教員</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1.5</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>1.2</td> <td>1.0</td> </tr> </table>		教員	保護者	29年度	1.5	1.1	28年度	1.2	1.0	<p>①②豪雨災害からの復興に向けて、学校だけでなく真備町を元気にする活動を保護者、地域、関係機関と連携し実施した。特に地元幼稚園児との交流は、自己有用感の育成に役立っているが、まだまだ割合は低い。被災もあり学校の現状は保護者説明会、三者懇談を開催し、またホームページやeこねっとを活用しタイムリーに発信できた。</p> <p>《開かれた学校づくり》</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>教員</td> <td>保護者</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1.4</td> <td>1.3</td> </tr> </table> <p>《自分は役に立つ人間である》</p> <table border="1"> <tr> <td>30年度</td> <td>0.1 (57%)</td> </tr> </table> <p>《陵南高校に来て良かった》</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>保護者</td> <td>生徒</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>1.4</td> <td>0.9(77%)</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>1.4</td> <td>0.6(68%)</td> </tr> </table>		教員	保護者	30年度	1.4	1.3	30年度	0.1 (57%)		保護者	生徒	30年度	1.4	0.9(77%)	29年度	1.4	0.6(68%)	<p>①②学校の魅力づくりについては、豪雨災害というピンチからの復興復旧に追われ、魅力の発信どころではなかった。しかし思いがけない経験や交流、繋がりがチャンスとなり、感謝の気持ちや豊かな心が育まれている。被災で地域との連携が後退しないよう、今後は防災や減災をキーワードに、自他の生命を尊重し、災害時に自らの役割を自覚し主体的に行動できる生徒を育成したい。</p>
	教員	保護者																													
29年度	1.5	1.1																													
28年度	1.2	1.0																													
	教員	保護者																													
30年度	1.4	1.3																													
30年度	0.1 (57%)																														
	保護者	生徒																													
30年度	1.4	0.9(77%)																													
29年度	1.4	0.6(68%)																													

<p>(2) 情報の見える化と研修の充実を図り、協力・協働体制の一層の推進を通して、組織力のある学校づくりに努める。</p>	<p>①教職員が連携・協働しながら学校全体のOJTを推進し、新たな教育課題への組織的対応を行う。</p> <p>②教職員同士のコミュニケーションを大切に、組織力を結集して「チーム陵南」で効率よく業務を遂行する。</p>	<p>①②学校評価アンケートの結果を活用する。</p> <p>《協働体制づくり》 教員 29年度 1.5 28年度 1.2 27年度 1.2 《やりがいのある職場》 教員 29年度 1.4 28年度 1.4</p>	<p>①協働体制づくりが昨年よりポイントを落とした。被災という非常事態に遭遇し、管理職の側でスピーディーに判断し事を運んだこともあって数値が低下したのではないかと思われる。</p> <p>《協働体制づくり》 教員 30年度 1.2 (92%)</p> <p>②豪雨災害からの復旧を通して「チーム陵南」として全員がよく頑張り、困難を一つずつ乗り越えることができた。</p> <p>《やりがいのある職場》 教員 30年度 1.4 (93%)</p>	<p>B</p>	<p>①次年度はOJTへの働きかけをもっと積極的に行いたい。</p> <p>②一部の教職員に負担がかからないよう組織で対応しているが、時に生徒指導や保護者対応で負担感を感じている教職員もいる。外部機関との協力も取りながら業務を遂行したい。</p>
--	---	---	--	----------	---